

# 令和3年度 学校評価 総括評価表

評価基準 A：十分に達成できた B：概ね達成できた C：十分には達成できなかった D：全く達成できなかった

## 令和3年度重点課題

- |             |                    |
|-------------|--------------------|
| 1 学校運営体制の充実 | 6 特別活動の活性化         |
| 2 人権教育の推進   | 7 安全教育と環境教育の推進     |
| 3 学習指導の充実   | 8 グローバル化に対応した教育の推進 |
| 4 進路指導の充実   | 9 特色ある学校作りの推進      |
| 5 生徒指導の充実   | 10 情報教育の推進         |

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策											
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見												
1 学校運営体制の充実	①チーム市高としての調和と統一のある学校運営を図る。  ②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る。  ③校内外での研修を通じて、指導力の向上を図る。	<table border="1"> <tr> <th>評価指標</th> <td>①教職員アンケートの「本校の基本方針である「学問」「スポーツ」「芸術」を3本柱とした教育がなされている」という項目において、「①よくあてはまる」の回答率70%以上をめざす。</td> </tr> <tr> <th>活動計画</th> <td>①管理職と各課(室)長・各学年主任が中心となって、各課(室)・各教科・各部活動等がお互いに報告・連絡・相談を密にして調整を図り、調和と統一のある学校運営を図る。</td> </tr> </table>	評価指標	①教職員アンケートの「本校の基本方針である「学問」「スポーツ」「芸術」を3本柱とした教育がなされている」という項目において、「①よくあてはまる」の回答率70%以上をめざす。	活動計画	①管理職と各課(室)長・各学年主任が中心となって、各課(室)・各教科・各部活動等がお互いに報告・連絡・相談を密にして調整を図り、調和と統一のある学校運営を図る。	<table border="1"> <tr> <th>評価指標の達成度</th> <td>①教職員アンケートの集計結果を見ると、「①よくあてはまる」は回答率50%で、指標の70%には届かなかった。ただし「②ややあてはまる」を加えると回答率は90.5%に達している。</td> </tr> <tr> <th>活動計画の実施状況</th> <td>①校務運営委員会をはじめ各種委員会（今年度は「制服検討委員会」、「創立60周年記念事業校内実行委員会」を新たに立ち上げた）において、十分な議論を行い、共通理解を図りながら学校運営を行った。特に新型コロナウイルス感染症（第6波）の感染防止については、対応組織体制や対処方法を整備し、各学年、各課で対策を講じながら、全教職員が一致団結して取り組むことができた。</td> </tr> </table>	評価指標の達成度	①教職員アンケートの集計結果を見ると、「①よくあてはまる」は回答率50%で、指標の70%には届かなかった。ただし「②ややあてはまる」を加えると回答率は90.5%に達している。	活動計画の実施状況	①校務運営委員会をはじめ各種委員会（今年度は「制服検討委員会」、「創立60周年記念事業校内実行委員会」を新たに立ち上げた）において、十分な議論を行い、共通理解を図りながら学校運営を行った。特に新型コロナウイルス感染症（第6波）の感染防止については、対応組織体制や対処方法を整備し、各学年、各課で対策を講じながら、全教職員が一致団結して取り組むことができた。	<table border="1"> <tr> <th>総合評価</th> <td>(評定) <b>A</b> ----- (所見) ①新学習指導要領に基づく教育課程の検討見直しや電子黒板、タブレットの導入に伴う教育のICT化（特に、コロナ禍で休校になった場合のタブレットを活用したオンライン学習）についての検討と準備を着実にいった。 ②各学期のe-ラーニング研修に加え、職員朝会や職員会議を有効に活用し、定期的随時にコンプライアンス意識の高揚を図ることができた。 ③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接により、すべての教員が自らの目標達成のための意識を高め、授業力の向上に取り組むことができた。</td> </tr> </table>	総合評価	(評定) <b>A</b> ----- (所見) ①新学習指導要領に基づく教育課程の検討見直しや電子黒板、タブレットの導入に伴う教育のICT化（特に、コロナ禍で休校になった場合のタブレットを活用したオンライン学習）についての検討と準備を着実にいった。 ②各学期のe-ラーニング研修に加え、職員朝会や職員会議を有効に活用し、定期的随時にコンプライアンス意識の高揚を図ることができた。 ③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接により、すべての教員が自らの目標達成のための意識を高め、授業力の向上に取り組むことができた。	<p>このようなコロナウイルス感染症が蔓延する中で、危機管理を重視しつつ、感染対策について、教員間の意思統一を図ることができている。</p> <p>そしてできる範囲で行事を行い、生徒のアンケート調査結果をみても、大変素晴らしい成果を上げていることがわかる。</p> <p>制服の改定に対しては、中学生や生徒（市高生）、保護者の意見などを幅広く取り入れ、市高のブランドである制服を重んじながら、検討していく必要がある。しかし、ブランドや伝統を守ることも大事であるが、時代に合わせて新しく作っていくことも大切である。様々な問題があると思うが、乗り越えていってほしい。</p>	<p>①「目標管理シート」の申告・報告・校長面談を有効に活用し、学校の課題と次年度の目標を共有し、チーム市高として組織的な学校運営を行う。</p> <p>学校目標の達成に向け、各学年、各分掌、各教科等での報告・連絡・相談を密にし、連携を図る。「学校運営協議会」を立ち上げ、地域や関係機関との連携を行い、社会に開かれたカリキュラムの改善や地域とともにある学校づくりに努める。</p> <p>②風通しの良い職場環境づくりを推進し、コンプライアンス意識を徹底する。研修を、年間を通じて機会ある毎に実施する。職員朝会で注意喚起するとともに、外部講師を招いての研修やe-ラーニングによる研修を引き続き実施する。</p> <p>③電子黒板やタブレットを有効活用した教育の情報化に対応するため、引き続き講習会や授業研究会に積極的に参加し、授業力の向上と改善に努める。</p>
		評価指標	①教職員アンケートの「本校の基本方針である「学問」「スポーツ」「芸術」を3本柱とした教育がなされている」という項目において、「①よくあてはまる」の回答率70%以上をめざす。													
		活動計画	①管理職と各課(室)長・各学年主任が中心となって、各課(室)・各教科・各部活動等がお互いに報告・連絡・相談を密にして調整を図り、調和と統一のある学校運営を図る。													
		評価指標の達成度	①教職員アンケートの集計結果を見ると、「①よくあてはまる」は回答率50%で、指標の70%には届かなかった。ただし「②ややあてはまる」を加えると回答率は90.5%に達している。													
活動計画の実施状況	①校務運営委員会をはじめ各種委員会（今年度は「制服検討委員会」、「創立60周年記念事業校内実行委員会」を新たに立ち上げた）において、十分な議論を行い、共通理解を図りながら学校運営を行った。特に新型コロナウイルス感染症（第6波）の感染防止については、対応組織体制や対処方法を整備し、各学年、各課で対策を講じながら、全教職員が一致団結して取り組むことができた。															
総合評価	(評定) <b>A</b> ----- (所見) ①新学習指導要領に基づく教育課程の検討見直しや電子黒板、タブレットの導入に伴う教育のICT化（特に、コロナ禍で休校になった場合のタブレットを活用したオンライン学習）についての検討と準備を着実にいった。 ②各学期のe-ラーニング研修に加え、職員朝会や職員会議を有効に活用し、定期的随時にコンプライアンス意識の高揚を図ることができた。 ③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接により、すべての教員が自らの目標達成のための意識を高め、授業力の向上に取り組むことができた。															

		<p>② e-ラーニング研修は年間3回、月2回は職員朝礼や職員会議で注意喚起を行い、コンプライアンス意識の向上を図る。</p> <p>③ 年2回の授業参観週間の実施や校内外の授業研究会、先進校や予備校の授業力研修会に積極的に参加する。</p> <p>③ 校長との面談を年2回以上実施し、育成評価システムの「目標管理シート」を効果的に活用する。</p>	<p>②夏のe-ラーニングによるコンプライアンス研修(7/1～7/7)をはじめ、年間3回のe-ラーニング研修を実施した。時機に応じた注意喚起を行ったが、約半数の月で2回の実施はできなかった。ただし、注意喚起の総数は昨年度より増え、コンプライアンス意識の向上につなげることができた。</p> <p>③年2回の授業参観週間において、全教員が他の教員の授業を参観し、授業力の向上を図ることができた。しかし、今年も、新型コロナウイルス感染症の影響で他校の授業研究会への直接参加はできなかったが、各教科でリモート授業や動画配信による授業研究に積極的に取り組んだ。</p> <p>③「目標管理シート」の当初申告時と最終報告時に校長面接を実施した。また、常勤講師についても時期を捉えて個別面接を行い、年間2回の実施が達成できた。</p>			
2	人権教育の推進	<p>①人権ホームルーム活動の充実を図る。</p> <p>②人権委員会を中心とした生徒の自主活動の充実を図る。</p> <p>③人権教育職員研修会の充実を図る。</p>	<p>①HR活動 1年生…6回、2年生…6回、3年生…5回</p> <p>①先行授業 1年生…3回、2年生…3回、3年生…2回 全学年で人権ホームルーム活動に際して先行授業を実施し、授業は公開とした。</p> <p>②事前研修 1年生…3回、2年生…3回、3年生…2回</p> <p>②市高人権新聞を年間5回発行。</p> <p>②「人権展」のため模造紙16枚以上作成した。市高祭が中止となったことから来場者は0人である。</p> <p>③校内研修は3回以上を開催。今年度も、PTA研修を開催することができなかった。</p>	総合評価 (評定) <b>A</b> (所見) ①年度当初に作成した人権教育年間計画に基づき人権ホームルーム活動の実施、それに伴う先行授業については、目標通りの成果をあげることができた。3年生の問題意識調査では8割以上の生徒が「市高での人権教育は充実していた」と回答した。これまでも目標としてきた、生徒が主体的に参加できる授業形態、生徒が人権問題を「身近なもの」として捉えられる授業内容を、引き続き探究したい。	<p>コロナ禍の中で、できなかった研修等もあるが、それでも、指標通りのHR活動を行い、また時機に応じて、扱うテーマ内容を一部変更するなど、柔軟で前向きな対応ができています。</p> <p>また、人権委員にホームルーム前の事前研修を行ったり、主体的に人権委員を授業に参加させるなど素晴らしい活動ができています。</p> <p>コロナでの感染者・医療従事者に対する差別や人権に対する教育にもいち早く取り組み、実施できている。</p>	<p>①今年度より人権ホームルーム活動において取り扱うテーマを一部変更して実施している。高校における人権学習は、生徒たちにとっては、さまざまな問題について知り、解決に向けて考える大切な時間である。人権教育課内でも今年度の取り組みについて振り返り、よりよい内容となるよう取り組んでいきたい。</p> <p>②本校の自主活動は、人権委員会の活動に支えられている。生徒(人権委員)がファシリテーターとなって行う授業の実現、校外活動への積極的な参加も推進したい。その際、できるだけ負担増とならないような配慮が必要である。また、人権問題研究部の活動の活性化にも期待したい。</p> <p>③本年度の研修は、動画を活用した自主研修、講師を招聘した講演を2回、他課との共同研修を実施した。参加者の感想や意見については、職員間で共有できるようにClassiを活用した。次年度は、</p>
		<p>評価指標</p> <p>①1年生は6回、2年生6回、3年生は5回以上の人権ホームルーム活動を確保する。</p> <p>①1年生は1回、2年生は1回の先行授業を行い、全学年での公開授業を目指す。</p> <p>②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>②「市高人権新聞」は年間5回以上の発行を目標とし、記事には人権委員が書いたものを2つ以上掲載する。</p> <p>②「人権展」で来場者100人以上を目指す。</p> <p>③PTA研修は2回、校内研修は3回以上の開催を目指す。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>②事前研修 1年生…3回、2年生…3回、3年生…2回</p> <p>②市高人権新聞を年間5回発行。</p> <p>②「人権展」のため模造紙16枚以上作成した。市高祭が中止となったことから来場者は0人である。</p> <p>③校内研修は3回以上を開催。今年度も、PTA研修を開催することができなかった。</p>			
		<p>活動計画</p> <p>①人権教育年間計画に基づき、各クラスの実態に即して指導を行う。</p> <p>①担任会で人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>①各学年で先行授業(公開授業を含む)を実施する。</p> <p>①1年次の最初と3年次の最後に、人権問題意識調査を実施する。</p> <p>②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>②人権ホームルーム記録用紙を作成する。</p> <p>②「市高人権新聞」を発行する。</p> <p>②市高祭で「人権展」を開催する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①1年生は身の回りの差別を中心に学習した。2年生は歴史から差別を捉えることを目標に同和問題やハンセン病等についてを学習した。3年生は進学・就職・結婚を中心に学習した。</p> <p>①担任会で人権ホームルーム活動の前に、各学年担当より次回テーマの主旨説明や事前研修を行った。</p> <p>①各クラス担任を中心に先行授業を参観し、授業評価と感想を授業者に提出してもらい、相互の研修とした。</p> <p>①1・3年生に人権問題意識調査を実施し、データの分析を行った。</p> <p>②人権ホームルーム活動の実施前に人権委員会を開き、次回テーマの主旨説明や事前研修を実施した。</p> <p>②各クラスの人権委員は、人権ホームルーム記録用紙を、活動当日または翌日に責任を持って提出できた。</p> <p>②各クラスの人権委員は、担当月の人権新聞作成につい</p>			

		②「人権啓発作品展示」を実施する。	て責任を持ってやり遂げた。 ②人権展のためのレポート作成を中心に積極的に行った。市高祭が中止となったため、「人権展」にて展示する予定であった作品等を後日エントランスで紹介した。 ②2月に人権啓発作品展を実施した。	③人権教育職員研修は、計画通り4回実施できた。PTA研修については、社会的状況を鑑みて今年度も中止とせざるを得なかった。多様な人権問題に対する教職員や保護者の要望に応えられるように、また新しい研修のあり方や内容等について次年度も工夫していく必要がある。	本校教職員の要望を踏まえつつ、社会状況に応じた研修を実施したいと考えている。	
		③校内研修を実施する。 ③PTA研修を実施する。	③1学期に2回、2学期に2回、校内研修等を実施した。内容は、1学期に「人権教育の目的とその内容」、夏季休業中に「学校で配慮と支援が必要なLGBTsについて」、9月に「同和問題の現状と同和問題を学ぶ意義について」、11月に「災害と人権」とした。 ③上記9月の校内研修はPTAと合同で実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止とさせてもらった。またPTA研修の一環として位置づけている3学期の人権意見発表会についても、同様の理由でPTAからの参加を見送らせてもらった。なお、年5回発行した人権新聞を、Classiを活用し発信することで本校の取り組みを知ってもらう機会をもつことができた。			
3 学習指導の 充実	①授業日数・授業時数の確保に努める。 ②わかりやすく、魅力ある授業に努める。 ③学習習慣の定着を図る。 ④思考力、判断力、表現力を育成する。 ⑤英語4技能を育成する。	評価指標 ①授業時数を800時間以上確保する。 ②(1年)「学習のかたち週間」を1学期と2学期の初めに実施する。 (2,3年)「学習のかたち週間」を1学期に実施する。 ②授業満足度80%以上を目指す。 ②校内授業参観週間を1・2学期に1回ずつ設定する。 ③定期考査前に家庭学習時間調査を実施し、3時間以上学習する生徒の割合を増やし、60%以上を目標とする。 ③定期考査後に「振り返りの時間(リフレクションタイム)」を設定し、取り組みにたいする成果と課題について自己評価させる。 ③学年団を中心とする学力向上研究会を各学期に1回以上開催し、学力や学習状況についての分析、共有、協議を行う。 ④補習授業での演習や実力テストでは、全教科において論述問題を出題する。 ④教科会を開き、論述問題についての出題や正答率について分析・検証を行う。 ⑤すべての生徒がネイティブと英会話を行うことができる機会をもつ。 ⑤英語外部検定を複数回受験できる機会を設ける。	評価指標の達成度 ①授業時数確保のため各学期定期考査後の日程を見直し、昨年より多い授業時数を確保している。 2学期末までの授業時数 昨年度814 今年度901 ②「学習のかたち週間」 1年 2回実施 2,3年 1回実施 ②授業満足度は89.4%で昨年より0.7%上昇した。 ②各学期に1度ずつ実施し、教員間で情報交換した。 ③2学期末の調査では、1年生25.5%。2年生34.9%であった。(昨年度1年生67.9%、2年生71.4%) ③定期考査ごとに設定し、自己評価をポートフォリオに記入・入力させた。 ③各学年において、ホームルームや個人の学力や学習状況などについて情報共有し、対策について協議した。 ④記述問題を出題し、思考力や表現力の育成に努めた。 ④教科会において、実力テストの出題についての協議・検討を行った。 ⑤1,2年生は3回、3年生は2回、すべての生徒がオンラインによる英会話レッスンを実施し、4技能の育成を図った。 ⑤民間の英語検定であるGTECを1回校内で実施した。また、英語検定の案内、受付を随時実施した。	総合評価 (評定) <b>B</b> (所見) ①わかりやすく生徒にとって魅力ある授業を目指し、校内授業参観等を通して、今後も努力を継続したい。 ②授業参観や授業評価を通じて、授業改善に取り組み、目標値に近い満足度を上げることができた。 ③定期考査前の学習時間は増加傾向にあるが、継続した取り組みに課題がある。 ④思考力、表現力の育成のため、授業や評価のあり方を工夫する必要がある。 ⑤事後の指導の拡充や適切な評価が必要で	コロナの影響があったにも関わらず、しっかりと授業時数の確保ができています。行事の精選なども考え、引き続き、授業時間確保に取り組んでほしい。 授業満足度のアンケート結果は素晴らしいが、「予習をして授業に臨んでいる」という項目に対して、かなり低い数値が見られたのが残念であった。家庭学習時間調査でも、実施時期が定期考査10日前であったということもあるが、例年よりもかなり低くなっている。授業に対して予習・復習の習慣を身に付け、家庭学習の充実をもっと図る必要があると感じた。 図書館の活用方法について考え、より一層進めてほしい。ビブリオバトルについても継続して実施できており、嬉しく思う。これからも継続してほしい。 生徒の活字離れが取り沙汰されているが、推薦図書を紹介などを行い、また生徒が希望する図書を購入す	①行事日程の見直しや行事の精選によって時数を確保できた。 ②校内授業参観や教科会議が、授業力や指導力の向上に十分機能するよう時間の確保を含め、充実させる。教科会議は学年教科会の充実も図りたい。授業参観や授業評価については、実施率が100%となっていないので、今後参加を呼びかけていく必要がある。タブレットPCの活用方法やアクティブラーニングやICT教育等新しい教育の形も生まれて来ているので、教員がお互いに学び合う意識を作ることが重要である。 ③早期からの学習習慣の定着のために、アダプティブラーニングを取り入れるなどの工夫を行いたい。 ④入試制度改革、新学習指導要領を見据え、評価のあり方を見直していきたい。

<p>⑥多面的評価を図る。</p> <p>⑦学校図書館の「学習センター」機能の充実を図る。</p> <p>⑧自ら学び、考え、判断できる主権者を育成する教育の充実を図る。</p>	<p>⑥すべての学年において、キャリアパスポートを作成させる。</p> <p>⑥記録用のワークシートを配布、配信し、HR活動やIRPの時間などを利用して、活動や実績を記録させ、成果や課題についての振り返りをさせる。</p> <p>⑦12月末までの生徒利用のべ人数6,000人、一般貸出1,500冊以上にする。</p> <p>⑧新聞発表を通じて、新聞を読む習慣のある生徒の割合60%以上を目指す。</p> <p>⑧各学年において、主権者教育に関わる講演や模擬選挙などを1回以上行う。</p>	<p>⑥全学年で学習の成果や活動履歴などをキャリアパスポートに記録させた。</p> <p>⑥12種類のワークシートを準備し、記述と入力の方で作成させた。</p> <p>⑦図書館便り7回・新着図書案内6回発行(3/31現在)</p> <p>⑦開館日数209日で、利用延べ人数5,250人、一般貸出(生徒個人+団体)冊数1,227冊。(3/31現在)</p> <p>⑧今まで新聞を読む習慣が無かった生徒が76.6%いた(3年生文系)が、37.6%の生徒に読む習慣が生まれた。しかし、依然39%の生徒に読む習慣がない。昨年35.3%</p> <p>⑧各学年1回ずつ実施すると共に、HRや教科において事後指導をした。</p>	<p>ある。</p> <p>⑥定期考査後の学習への取組に対する振り返りは定着させることができた。キャリアパスポートの内容についての指導に課題がある。</p> <p>⑦今年度の1/15現在の入館者数は昨年度に引き続き、目標に大きく届かなかった。利用のべ人数が大きく減少したものの、貸出冊数は若干だが増加している。特定の者が多くの本を借りているという状況がみられる。また、今年度も図書委員主催の図書館展や1,2年生対象のビブリオバトルを実施しており、読書活動啓発に一定の成果をあげている。しかし、まだまだ本の動きが少なく、課題は多い。</p> <p>⑧公民科の授業だけではなく、生徒会役員選挙やHR、総合学習の時間等に社会への関心を高め、意見交換をする時間を設けた。生徒アンケートによると、年度初めに新聞を読む習慣のない生徒が全体の76%を占めていたが、うち37%が少し読むようになったと回答している。また、従来読む習慣のあった生徒もより深く記事を読むようになったり、依然読む習慣がない生徒もニュースを見るようになったと回答しており、社会への関心が高まっ</p>	<p>るなど、図書の購入方法についても考えてもらいたい。</p> <p>新聞については未購読の家庭も増える中で難しい面があるが、新聞にだけにとわれず、インターネットやテレビなどのニュースでも良いので、政治や経済、時事問題について考え、関心を持つことが大切である。公民だけでなく、様々な教科で新聞記事の利用や提示を図り、その重要性を伝え、これからも生徒の興味・関心を高めていけるように努力していってほしい。</p>	<p>⑤進路指導目標や生徒の実態に即した環境整備に向け、改善を図る必要がある。また、リフレクションシートなどを活用し、4技能の定着・向上に向け、英語科と連携して取り組んでいきたい。</p> <p>⑥キャリアパスポートを活用して、学習の振り返りを拡充し、学力の向上につなげたい。また、キャリアパスポートをとおして、多面的・総合的評価の充実を図りたい。</p> <p>⑦読書習慣の定着と図書館利用の促進、特に「読書の面白さ発信」に引き続き取り組んでいきたい。</p> <p>⑧新聞を取っていない家庭やネットニュースで情報を入れる者が増えているが、その分学校での新聞を使った取り組みの意味合いが高まっていると言える。成人年齢の引き下げも直前に迫る中、今後も主権者となる高校生の社会的関心を高める取り組みを進めていきたい。</p>
<p>活動計画</p> <p>①行事を精選し、授業カットや短縮はなるべく避け、振り替え授業を徹底する。</p> <p>①45分の授業に集中するため、チャイムとともに授業を始める。</p> <p>②学期の最初の1週間を「学習のかたち週間」とし、全教科科目で実施する。予習・復習・ノートのとり方・授業に臨む態度など望ましい学習習慣の定着に努める。</p> <p>②教科会議で話し合い、授業方法の改善に努める。生徒による授業評価を行う。</p> <p>②校内授業参観週間では授業参観カードを有効に利用し、教師相互の授業改善に努める。</p> <p>③週間課題・日々の課題を活用し、学力の定着を図る。</p> <p>③学習時間調査の期間を利用して、生徒一人一人の学習状況を確認するとともに、学習習慣の定着を促進する。</p> <p>④補習授業の計画・実施や実力テストの作成などの機会を活用し、思考力、判断力、表現力の育成を図る。</p> <p>⑤ICT環境の整備を計画的に進める。</p> <p>⑤英語外部検定の受験機会を拡充するとともに、取得に向けた対策を講じる。</p> <p>⑥IRPやキャリア教育と連携して取り組む。</p> <p>⑥ポートフォリオに基づき、生徒の活動について多面的に評価を行う。</p> <p>⑦教科や学年との連携を強化し、授業内容に合った資料の収集に努める。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①出張・年休は可能な限り振り替え授業で対応した。授業時数の確保については、全職員共通認識の上で定着しつつある。</p> <p>②1学期当初は全学年に、2学期当初は1年生に実施し、教科担任から具体的な解説を行い、生徒の学習習慣の定着を図った。</p> <p>②1・2学期末に授業評価をし、生徒の意見を授業に反映させると共に、教科会で授業改善に取り組んでいる。</p> <p>②参観者の感想を授業担当者に渡し、授業改善の参考にしている。</p> <p>③課題を活用し、学習習慣の定着に取り組んでいる。</p> <p>③一人一人の支援に役立てるとともに、ホームルームにおいて、あるべき集団づくりの機会として活用した。</p> <p>③自習室を平日8:30~19:00、休日8:30~16:30に年間を通じて開放した。2月4日まで254日開放。</p> <p>④主体的な学び、思考力、判断力、表現力の育成を踏まえた、補習授業の計画、実力テストの作成を行った。</p> <p>⑤重点目標を踏まえた環境整備ができなかった。</p> <p>⑤民間の英語検定であるGTECを校内で1回、また、英語検定の案内、受付を随時実施した。</p> <p>⑥IRPの年間の活動計画に盛り込んだ。</p> <p>⑥IRPやホームルーム活動などの機会において主体性、協働性などについて評価する機会を増やした。</p> <p>⑦教科に予算配分し、購入書籍の推薦を依頼し購入したり、学年毎にビブリオバトルを実施したりするなど、教科や学年との連携を図ることができた。</p>				

		<p>⑧夏季休業中の課題として、地歴・公民科でレポートを提出させることで表現する力を向上させる。</p> <p>⑧公民科において、新聞を使った発表を行い、社会問題への関心を高める。</p> <p>⑧各学年において、公民科の授業や総合学習における講演や体験的学習等を通じ、生徒の意識を高める。</p>	<p>⑧1年生の科目「現代社会」の夏休み課題として地域調べの課題を出し、教科で評価した他、クラスで発表会を行い、IRPの北海道調べに活用した。</p> <p>⑧1年生各クラス・3年生文系クラスにおいて、新聞記事を利用した発表を行い、生徒同士の意見交換の時間も盛り込んだ。</p> <p>⑧1学年：模擬選挙、2学年：講演を実施し、社会参画の意義について考えた。なお、3学年で予定されていた年金セミナーについても、今年度はオンライン形式で実施し、社会保障の役割について意識を高めた。</p>	<p>ている考えられる。</p>										
<p>4 進路指導の充実</p>	<p>①生徒一人ひとりの進路希望の実現に努める。</p> <p>②IRP活動の充実を図る</p>	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="524 498 1141 579">評価指標</th> <td data-bbox="524 579 1141 788"> <p>①すべての生徒の進路について複数の教員で考える、進路検討会を定期的実施する。</p> <p>①生徒と担任の二者面談週間を年間3回実施する。</p> <p>①生徒・保護者・担任の三者面談を年間2回実施する。</p> <p>①難関大学（旧帝大・東工大・一橋大・神戸大・国公立大医学部医学科・早稲田・慶応）の合格者数30人以上を目標とする。</p> </td> </tr> <tr> <th data-bbox="524 788 1141 1222">評価指標の達成度</th> <td data-bbox="524 788 1141 1222"> <p>①3学年は4回実施した。1、2学年は学力向上研究会に代えて各学期に2回実施した。（1学期は1回）</p> <p>①三者面談 1年2回、2年2回、3年3回実施した。</p> <p>①二者面談 1年2回、2年2回、3年4回実施した。</p> <p>①合格者25名（3月31日現在）</p> </td> </tr> <tr> <th data-bbox="524 1222 1141 1271">活動計画</th> <td data-bbox="524 1222 1141 1765"> <p>①生徒の志望の実現に向け、学力を育成するための支援について学年団で話し合い、指導力の向上を図る。</p> <p>①生徒一人ひとりの長所・適性を把握する。</p> <p>①入試制度に関する情報やデータの収集に努め、進路説明会やホームページなどをとおして、生徒や保護者に適切な情報を提供する。</p> <p>①大学等の出張講義や研究施設を積極的に活用する。</p> <p>①高大連携を推進するとともに、連携事業への参加をうながすことで、生徒の知見を広げる機会を増やす。</p> </td> </tr> </table>	評価指標	<p>①すべての生徒の進路について複数の教員で考える、進路検討会を定期的実施する。</p> <p>①生徒と担任の二者面談週間を年間3回実施する。</p> <p>①生徒・保護者・担任の三者面談を年間2回実施する。</p> <p>①難関大学（旧帝大・東工大・一橋大・神戸大・国公立大医学部医学科・早稲田・慶応）の合格者数30人以上を目標とする。</p>	評価指標の達成度	<p>①3学年は4回実施した。1、2学年は学力向上研究会に代えて各学期に2回実施した。（1学期は1回）</p> <p>①三者面談 1年2回、2年2回、3年3回実施した。</p> <p>①二者面談 1年2回、2年2回、3年4回実施した。</p> <p>①合格者25名（3月31日現在）</p>	活動計画	<p>①生徒の志望の実現に向け、学力を育成するための支援について学年団で話し合い、指導力の向上を図る。</p> <p>①生徒一人ひとりの長所・適性を把握する。</p> <p>①入試制度に関する情報やデータの収集に努め、進路説明会やホームページなどをとおして、生徒や保護者に適切な情報を提供する。</p> <p>①大学等の出張講義や研究施設を積極的に活用する。</p> <p>①高大連携を推進するとともに、連携事業への参加をうながすことで、生徒の知見を広げる機会を増やす。</p>	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="1141 498 1758 579">総合評価</th> <td data-bbox="1141 579 1758 1765"> <p>(評定) <b>A</b></p> <p>(所見)</p> <p>①昨年度までの課題であった、1、2年生の学習習慣の定着、進路意識の高揚を図るための情報共有や協議・対策の機会を持つことができた。また、学力を多面的・総合的に評価する大卒なども増加しており、これに対応する支援体制の拡充が必要となる。</p> <p>②IRPにおいては地元徳島を対象とし、探究活動を実施するとともに調査・研究方法も学ぶことができた。また、京大、徳大を中心とした高大連携事業は今年度はコロナ禍ではあったが、昨年比べて実施できた事業が多く、オンラインを始めとするICTの普及を感じる。</p> </td> </tr> </table>	総合評価	<p>(評定) <b>A</b></p> <p>(所見)</p> <p>①昨年度までの課題であった、1、2年生の学習習慣の定着、進路意識の高揚を図るための情報共有や協議・対策の機会を持つことができた。また、学力を多面的・総合的に評価する大卒なども増加しており、これに対応する支援体制の拡充が必要となる。</p> <p>②IRPにおいては地元徳島を対象とし、探究活動を実施するとともに調査・研究方法も学ぶことができた。また、京大、徳大を中心とした高大連携事業は今年度はコロナ禍ではあったが、昨年比べて実施できた事業が多く、オンラインを始めとするICTの普及を感じる。</p>	<p>きめ細やかな指導をされている。大学進学率も高く素晴らしい。伝統ある市高の進学については、苦勞もたくさんあると思うが、今後も引き続き継続していてももらいたい。</p> <p>IRP活動（市高レインボウプラン）の生徒満足度が80%近いのが、素晴らしい。</p> <p>また、コロナの影響があったにも関わらず、充実した様々な活動ができています。今後も素晴らしい人材の育成に向けて取り組んで欲しい。</p>	<p>①学力向上研究会を立ち上げ、学力の分析、学習習慣の定着、進路意識の高揚のため、組織的に取り組む体制ができた。今後、内容を充実させ、目的が達成できるように努めていきたい。</p> <p>また、高大接続改革、新入試制度についての情報収集に努め、教職員間で情報を共有するとともに、生徒や保護者への適切な情報提供に努めたい。</p> <p>②高大連携は引き続き徳大、京大を中心とした事業を展開したい。しかし、京大との連携は今年で一端終了、徳大医学部JSLも全国公募になるほか、徳大との連携でキーマンとなっている三隅先生の退職が近づいてきている。京大との連携を含め、新しい形を模索する時期であることは間違いない。京大ELCAS、阪大SEEDS、神戸大ROOTへの参加も徳島枠は無く、全国公募の事業になっており、本校からの参加者は把握できていない。</p> <p>IRPは1年生にマイナビのオンラインスタディプランを導入、2年生で本格的な探究学習を開始できるように体制を整え、そのノウハウを1～2で吸収したい。また、2年</p>	
評価指標	<p>①すべての生徒の進路について複数の教員で考える、進路検討会を定期的実施する。</p> <p>①生徒と担任の二者面談週間を年間3回実施する。</p> <p>①生徒・保護者・担任の三者面談を年間2回実施する。</p> <p>①難関大学（旧帝大・東工大・一橋大・神戸大・国公立大医学部医学科・早稲田・慶応）の合格者数30人以上を目標とする。</p>													
評価指標の達成度	<p>①3学年は4回実施した。1、2学年は学力向上研究会に代えて各学期に2回実施した。（1学期は1回）</p> <p>①三者面談 1年2回、2年2回、3年3回実施した。</p> <p>①二者面談 1年2回、2年2回、3年4回実施した。</p> <p>①合格者25名（3月31日現在）</p>													
活動計画	<p>①生徒の志望の実現に向け、学力を育成するための支援について学年団で話し合い、指導力の向上を図る。</p> <p>①生徒一人ひとりの長所・適性を把握する。</p> <p>①入試制度に関する情報やデータの収集に努め、進路説明会やホームページなどをとおして、生徒や保護者に適切な情報を提供する。</p> <p>①大学等の出張講義や研究施設を積極的に活用する。</p> <p>①高大連携を推進するとともに、連携事業への参加をうながすことで、生徒の知見を広げる機会を増やす。</p>													
総合評価	<p>(評定) <b>A</b></p> <p>(所見)</p> <p>①昨年度までの課題であった、1、2年生の学習習慣の定着、進路意識の高揚を図るための情報共有や協議・対策の機会を持つことができた。また、学力を多面的・総合的に評価する大卒なども増加しており、これに対応する支援体制の拡充が必要となる。</p> <p>②IRPにおいては地元徳島を対象とし、探究活動を実施するとともに調査・研究方法も学ぶことができた。また、京大、徳大を中心とした高大連携事業は今年度はコロナ禍ではあったが、昨年比べて実施できた事業が多く、オンラインを始めとするICTの普及を感じる。</p>													

		②京都大学や関西の他大学、徳島大学との高大連携事業を実施し、広い教養をもとに最先端の学知にふれる。	②京都大学で、初めて理数科セミナーを実施。本校卒業生の在籍も確認され、今後も理数科セミナーを実施できる環境であった。ただし、京大との高大連携事業は、本年度で終了。甲南大学と4年目になる「関西湾岸SDGsチャレンジ」では、5名の生徒が参加し、最優秀賞を取った。徳島大学は、教養教育院と「多言語ラボ」、「異文化キャラバン」、「留学生交流会」を実施。医学部とJSLを実施。歯学部は延期となった。また、2年生IRPを中心に、徳大・鳴教大・文理大・四国大からも講師を招聘した。		生で行っているレポートは、何もしていない3年生に上げることで、あまり機能していないIRPグループを活用したい。																				
5 生徒指導の充実	①集団生活におけるルールを遵守させ、マナーの向上を図る。 ②遅刻防止の指導の充実を図る。 ③特別なニーズを有する生徒について、支援体制を整える。	<table border="1"> <tr><th>評価指標</th></tr> <tr><td>①登校指導を毎日行う。 ①生活指導の集会を年5回以上実施する。 ①街頭交通指導を年20回以上実施する。 ①年2回いじめに関するアンケートを行う。</td></tr> <tr><td>②遅刻指導強化週間を、学年単位で各学期に1回以上実施する。 ②1日当たりの遅刻者を10人以下を目指す。</td></tr> <tr><td>③教育相談担当者と希望者による校内研修会を2回以上実施し、相談スキルの向上を図る。 ③各特別支援担当者が特別支援教育関係の研修等に1回以上参加する。</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th>活動計画</th></tr> <tr><td>①年間計画に基づいて指導にあたる。 ①生徒会・交通委員とともに挨拶運動を展開する。  ①学年集会、全校集会で指導する。  ①毎月の交通マナーアップ運動の日、学校安全の日街頭指導をする。 ①いじめアンケート結果に基づいて面談を行う</td></tr> <tr><td>②遅刻理由を把握し指導する。 ②遅刻の多い者には各学年団で指導を行う。</td></tr> <tr><td>③1、2学期に1回ずつ以上、スクールカウンセラーの先生にアドバイザーを依頼し、模擬面談等を手立てに、体験型の研修会を実施する。</td></tr> </table>	評価指標	①登校指導を毎日行う。 ①生活指導の集会を年5回以上実施する。 ①街頭交通指導を年20回以上実施する。 ①年2回いじめに関するアンケートを行う。	②遅刻指導強化週間を、学年単位で各学期に1回以上実施する。 ②1日当たりの遅刻者を10人以下を目指す。	③教育相談担当者と希望者による校内研修会を2回以上実施し、相談スキルの向上を図る。 ③各特別支援担当者が特別支援教育関係の研修等に1回以上参加する。	活動計画	①年間計画に基づいて指導にあたる。 ①生徒会・交通委員とともに挨拶運動を展開する。  ①学年集会、全校集会で指導する。  ①毎月の交通マナーアップ運動の日、学校安全の日街頭指導をする。 ①いじめアンケート結果に基づいて面談を行う	②遅刻理由を把握し指導する。 ②遅刻の多い者には各学年団で指導を行う。	③1、2学期に1回ずつ以上、スクールカウンセラーの先生にアドバイザーを依頼し、模擬面談等を手立てに、体験型の研修会を実施する。	<table border="1"> <tr><th>評価指標の達成度</th></tr> <tr><td>①6月以降適宜行う。 ①学年集会を1年2回、2年3回、3年3回実施した。 ①交通マナーアップ10回、学校安全の日10回実施した。 ①7月と12月にアンケートを行った</td></tr> <tr><td>②各学年1回実施した。 ②今年度1年2.1人、2年2.0人、3年2.2人であった。(昨年度2.2人)</td></tr> <tr><td>③年間1回(12月)実施。精神科医による思春期特有の疾患に焦点を当てた内容であり、今後の支援のあり方について学ぶことができた。 ③特別支援担当者が1回以上研修・講演等に参加し、特別支援教育に関する知識や技能の習得を図ることができた。</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th>活動計画の実施状況</th></tr> <tr><td>①生徒指導年間計画に基づいて適切に行った。 ①生徒を主体とするあいさつ運動は生徒会、交通委員とともに達成できた。 ①集会における指導は問題行動を防ぐ、交通マナー等生徒の健全育成に努めた。 ①毎月10日マナーアップ運動、20日学校安全の日、職員交通委員とともに達成できた。 ①各担任アンケート結果を配布した。</td></tr> <tr><td>②遅刻理由を把握し、適切な指導が行えた。 ②各学年において遅刻指導を行った。</td></tr> <tr><td>③本年度は全体に向けての講義は中止。12月に精神科医を迎えて思春期に多くみられる症例と対処法の講座を実施し、1学年の職員を中心に研修に参加した。</td></tr> </table>	評価指標の達成度	①6月以降適宜行う。 ①学年集会を1年2回、2年3回、3年3回実施した。 ①交通マナーアップ10回、学校安全の日10回実施した。 ①7月と12月にアンケートを行った	②各学年1回実施した。 ②今年度1年2.1人、2年2.0人、3年2.2人であった。(昨年度2.2人)	③年間1回(12月)実施。精神科医による思春期特有の疾患に焦点を当てた内容であり、今後の支援のあり方について学ぶことができた。 ③特別支援担当者が1回以上研修・講演等に参加し、特別支援教育に関する知識や技能の習得を図ることができた。	活動計画の実施状況	①生徒指導年間計画に基づいて適切に行った。 ①生徒を主体とするあいさつ運動は生徒会、交通委員とともに達成できた。 ①集会における指導は問題行動を防ぐ、交通マナー等生徒の健全育成に努めた。 ①毎月10日マナーアップ運動、20日学校安全の日、職員交通委員とともに達成できた。 ①各担任アンケート結果を配布した。	②遅刻理由を把握し、適切な指導が行えた。 ②各学年において遅刻指導を行った。	③本年度は全体に向けての講義は中止。12月に精神科医を迎えて思春期に多くみられる症例と対処法の講座を実施し、1学年の職員を中心に研修に参加した。	<table border="1"> <tr><th>総合評価</th></tr> <tr><td>(評定) <b>A</b></td></tr> <tr><td>(所見) ①計画的に、また臨時に集会を実施し、ルールの遵守やマナーの向上を図った。 ②遅刻者数は毎年減少傾向と思われる。しかし、特定の生徒が目立つ状況であり生活習慣の指導を徹底する必要がある。 ③校外の研修等を通して、教育相談・特別支援担当者の知識の習得やスキルの向上を図ることができた。</td></tr> </table>	総合評価	(評定) <b>A</b>	(所見) ①計画的に、また臨時に集会を実施し、ルールの遵守やマナーの向上を図った。 ②遅刻者数は毎年減少傾向と思われる。しかし、特定の生徒が目立つ状況であり生活習慣の指導を徹底する必要がある。 ③校外の研修等を通して、教育相談・特別支援担当者の知識の習得やスキルの向上を図ることができた。	遅刻指導の対応と登下校時の事故防止等、今後もしっかり進めてほしい。 市高生の自転車の通行マナーについては良いように思える。 今後は交通マナーやモラルについての教育にも取り組んで欲しい。そして、引き続き事故対策を考え、生徒の交通意識が高まるような取り組みに期待したい。	①あいさつ運動は毎週月曜日に実施しているが来年度も実施したい。 ②来年度も根気よく指導継続したい。 ③研修の方法の見直しをほかりたい。 個々の生徒の状況に応じたケース会議の充実や関係機関との連携をさらに強化し、早期の対応ができるよう心がける必要がある。
評価指標																									
①登校指導を毎日行う。 ①生活指導の集会を年5回以上実施する。 ①街頭交通指導を年20回以上実施する。 ①年2回いじめに関するアンケートを行う。																									
②遅刻指導強化週間を、学年単位で各学期に1回以上実施する。 ②1日当たりの遅刻者を10人以下を目指す。																									
③教育相談担当者と希望者による校内研修会を2回以上実施し、相談スキルの向上を図る。 ③各特別支援担当者が特別支援教育関係の研修等に1回以上参加する。																									
活動計画																									
①年間計画に基づいて指導にあたる。 ①生徒会・交通委員とともに挨拶運動を展開する。  ①学年集会、全校集会で指導する。  ①毎月の交通マナーアップ運動の日、学校安全の日街頭指導をする。 ①いじめアンケート結果に基づいて面談を行う																									
②遅刻理由を把握し指導する。 ②遅刻の多い者には各学年団で指導を行う。																									
③1、2学期に1回ずつ以上、スクールカウンセラーの先生にアドバイザーを依頼し、模擬面談等を手立てに、体験型の研修会を実施する。																									
評価指標の達成度																									
①6月以降適宜行う。 ①学年集会を1年2回、2年3回、3年3回実施した。 ①交通マナーアップ10回、学校安全の日10回実施した。 ①7月と12月にアンケートを行った																									
②各学年1回実施した。 ②今年度1年2.1人、2年2.0人、3年2.2人であった。(昨年度2.2人)																									
③年間1回(12月)実施。精神科医による思春期特有の疾患に焦点を当てた内容であり、今後の支援のあり方について学ぶことができた。 ③特別支援担当者が1回以上研修・講演等に参加し、特別支援教育に関する知識や技能の習得を図ることができた。																									
活動計画の実施状況																									
①生徒指導年間計画に基づいて適切に行った。 ①生徒を主体とするあいさつ運動は生徒会、交通委員とともに達成できた。 ①集会における指導は問題行動を防ぐ、交通マナー等生徒の健全育成に努めた。 ①毎月10日マナーアップ運動、20日学校安全の日、職員交通委員とともに達成できた。 ①各担任アンケート結果を配布した。																									
②遅刻理由を把握し、適切な指導が行えた。 ②各学年において遅刻指導を行った。																									
③本年度は全体に向けての講義は中止。12月に精神科医を迎えて思春期に多くみられる症例と対処法の講座を実施し、1学年の職員を中心に研修に参加した。																									
総合評価																									
(評定) <b>A</b>																									
(所見) ①計画的に、また臨時に集会を実施し、ルールの遵守やマナーの向上を図った。 ②遅刻者数は毎年減少傾向と思われる。しかし、特定の生徒が目立つ状況であり生活習慣の指導を徹底する必要がある。 ③校外の研修等を通して、教育相談・特別支援担当者の知識の習得やスキルの向上を図ることができた。																									
6 特別活動の活性化	①部活動の活性化に努める。	<table border="1"> <tr><th>評価指標</th></tr> <tr><td>①部活動加入率90%以上。 ①四国大会以上の大会への出場部数10部以上。</td></tr> </table>	評価指標	①部活動加入率90%以上。 ①四国大会以上の大会への出場部数10部以上。	<table border="1"> <tr><th>評価指標の達成度</th></tr> <tr><td>①部活動加入率 1年 107% 2年 103% 3年 93% 全体 101% ①四国大会以上の出場部数 &lt;今年度の目標から削除&gt; 四国大会 11部 全国大会 7部</td></tr> </table>	評価指標の達成度	①部活動加入率 1年 107% 2年 103% 3年 93% 全体 101% ①四国大会以上の出場部数 <今年度の目標から削除> 四国大会 11部 全国大会 7部	<table border="1"> <tr><th>総合評価</th></tr> <tr><td>(評定) <b>A</b></td></tr> <tr><td>(所見) ①部活動が活発に行</td></tr> </table>	総合評価	(評定) <b>A</b>	(所見) ①部活動が活発に行	コロナの影響を受け、大変である中、部活動の入部率がこれだけ高いことは素晴らしい。 今後も伝統ある市高の部活動の活性化また実績に期	①継続して加入率の増加に努めるとともに、競技実績のアップにも努めたい。 ②校内ボランティアは年3												
評価指標																									
①部活動加入率90%以上。 ①四国大会以上の大会への出場部数10部以上。																									
評価指標の達成度																									
①部活動加入率 1年 107% 2年 103% 3年 93% 全体 101% ①四国大会以上の出場部数 <今年度の目標から削除> 四国大会 11部 全国大会 7部																									
総合評価																									
(評定) <b>A</b>																									
(所見) ①部活動が活発に行																									

	<p>②ボランティア活動や生徒会活動を活性化する</p>	<p>②校内ボランティア活動を年3回実施する。 ②年3回生徒会新聞「フリーダム」を発刊する</p> <p>活動計画</p> <p>①勉強と部活動との両立をHR活動や学年集会等で指導する。 ①部活動紹介・壮行会・表彰伝達式で意識の高揚を図る。</p> <p>②校内や周辺地域のボランティア活動を積極的に行い、豊かな人間性や社会性を育てる。 ②生徒会の活動をフリーダムに掲載することにより愛校心を養う。</p>	<p>②校内ボランティア活動を年3回実施した。 ②生徒会新聞「フリーダム」を3回発刊した。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①新入生オリエンテーションで部活動と勉強の両立を指導するとともに、部活動紹介で部活動に加入することを指導した。 ①全てリモートでの実施となったが、全校生徒に報告した。</p> <p>②コロナの関係で実施できなかった。 ②生徒会新聞を作成し、生徒の健全育成に努め、愛校心を養うよう努めた。</p>	<p>われており、生徒の満足度は高いと思われる。さらなる充実感が得られるような指導の取り組みが求められる。</p> <p>②コロナウィルスの関係でボランティア等の校外での活動はほとんどできなかった。</p>	<p>待っている。</p>	<p>回の実施を継続して実施したい。 各種委員会による活動の活性化に努力したい。 生徒会新聞「フリーダム」の内容をもっと充実したものにしていきたい。 全体を通じて感染症予防策をとりながら校内外活動が実施できるよう工夫していきたい。</p>
<p>7 安全教育和環境教育の推進</p>	<p>①資源の有効利用や環境負荷の軽減、環境保全など、地球にやさしい学校作り積極的に取り組む。</p> <p>②防災意識を高め、災害時に自らの命を守り、落ち着いて行動できる能力の育成に取り組む。</p> <p>③安全教育を推進するとともに、安全管理の一層の充実を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①節電・節水に努める。 ①ゴミの分別、減量化に努める。 ①リデュース、リユース、リサイクルに努める。 ①環境委員による校内美化活動を年間10回実施する。 ①学校周辺地域の清掃活動を年間2回以上実施する。</p> <p>②防災について関心の高い生徒の割合を70%以上にする。 ②生徒の防災士資格取得者を育成する。 ②防災HRを計画、実施する。</p> <p>③学校安全の日に合わせて保健委員会による安全点検を実施する。 ③心肺蘇生法等に関する職員研修を年1回以上実施する。 ③保健だよりにより保健委員会コーナーを設け、年間5回以上発行する。</p> <p>活動計画</p> <p>①毎月の電力、水道使用量を調べ、昨年同期との比較を行い、結果を全校に知らせる。 ①スイッチや蛇口に節電・節水と呼びかける表示を貼り、注意を促し、使用していない教室等の照明をこまめに消す。 ①ゴミの分別を徹底する。 ①ペットボトルの分別回収、古紙の回収をおこない、印刷紙の裏面利用の徹底を図る。 ①環境美化に関するポスターや標語を作成する。 ①環境委員による校内美化活動を実施し、環境掲示板にて報告する。 ①学校周辺地域の清掃活動の日を設け、全校生徒で清掃奉仕活動を実施する。 ①定期的に校内放送で、環境美化や省エネについて、全校生徒に呼びかける。</p> <p>②年2回防災訓練を実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①校内美化活動 5回実施</p> <p>①学校周辺地域の清掃活動 2回実施</p> <p>②防災に関心の高い生徒の割合68.5% 昨年度 76.6% 一昨年度 70.6%</p> <p>②防災士は4名が受検し、全員合格した。 ②防災HRを計画し、1回実施することができた。</p> <p>③保健委員会による校内環境衛生管理を年間24回実施することができた。 ③緊急時の対応について繰り返し周知徹底を行うとともに、心肺蘇生法・アレルギー対応研修を1回実施した。 ③保健だよりにより保健委員会コーナーを設け、年間12回発刊できた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①毎月の使用電気量及び電気代を調べ、過去2年間と比較したものを掲示する事により、より一層節電意識を高めていった。また、事務室との連携により集中管理を行い成果を上げることができた。 ①ゴミの分別ができていないクラスや清掃場所をチェックし、そのたびに注意勧告を行う事により、分別状況が改善されるようになった。 ①ペットボトル、段ボールの分別回収を行ったり、職員室では印刷用紙の裏面使用の徹底を進めた。 ①環境委員による環境美化に関するポスターを作成し、環境美化活動を実施した。 ①校外清掃活動を企画し、地域周辺の清掃奉仕活動を行った。</p> <p>②1,2学期にそれぞれ防災訓練を1回ずつ(計2回)実</p>	<p>総合評価 (評定) <b>A</b> (所見) ①「新学校版環境ISO」認定校として、「環境目標」、「行動方針・実施方法」、「役割分担・組織」などを掲示し、環境にやさしい学校づくりについて活発な活動を行う事ができた。特に今年度は環境委員がテーマを決め掲示板を利用した呼びかけ活動を行うことができた。</p> <p>②今年度はコロナ感染症の増加で昨年度以上に活動が縮小され、計画通り実施することができなかった。避難訓練では新たにグラウンドへの避難を計画し実施することができた。 今年度も防災HRを実施し、さらに防災意識を向上させ、自分はもちろん身の周りの人の生命を守るために日頃どのような準備や心づもりをすべきかを考える時間を持つことができた。学校防災士には</p>	<p>コロナ対策等、大変なこともたくさんあったと思うが、充実した活動や取り組みについて十分評価できる。防災士の合格も素晴らしい。また、各教室に空気清浄機を設置するとともに、換気の徹底を行うなど、感染予防の点でもしっかりした取り組みがなされている。防災についても様々な職員研修を実施し、充実した研修を行うことができています。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症感染予防対策を考慮しての節電・節水を工夫して取り組んでいきたい。ごみの分別、減量化に関しては、まだまだ努力できると思われる。行動を記録し、掲示するなどして意識の向上を目指していきたい。</p> <p>②継続して防災LHRを実施し、災害対応を自らの問題として考える時間をつくっていききたい。避難訓練においては、新型コロナウイルス感染症感染予防対策を考慮して見直し、計画し実行に移していきたい。地域と共同で行う訓練に向け、意識の高揚を図っていききたい。 防災委員会の活動が、主体的で継続的な活動になるよう環境を整え、地域との連携に繋げていく事が課題である。</p> <p>③新型コロナウイルス感染症感染予防対策により保健委員会の活動は、負担が多く、より重要なものになってきた。気の緩むことのないよう継続して続けていきたい。 保健だよりの保健委員によるコーナーも次年度に</p>

		<p>②授業を通して、自然災害についての理解を深め、防災意識の向上に努める。</p> <p>②防災委員会活動を防災掲示板にて報告し、意識の向上に努める。</p> <p>②防災委員会を組織する事で、生徒の研修の機会を増やし、地域と連携した活動に繋げる。</p> <p>②防災センターと連携し、防災HRを計画、実施して意識の向上に努める。</p>	<p>施した。新型コロナウイルス感染症感染予防を考慮し、実施内容の変更もあったが、実施することができた。</p> <p>②各教科において適宜自然災害についての話題を授業に取り組み実施した。</p> <p>②防災委員会において防災リーダーとしての意識を高め避難訓練の中心となり活動した。</p> <p>②防災HRを昨年度の反省をもとに計画し実施した。(1・2年 講演会)</p>	<p>4名合格し他校との交流会にも参加し意見交換をすることができた。</p> <p>③保健委員会の活動や保健だよりや掲示板の設置により安全や健康に関する意識を高めることに繋げた。職員研修については、徳島市民病院のDMATの方を講師に招き、心肺蘇生法・アレルギー対応の研修を行い、資質・能力の向上に努めた。</p>	<p>においても継続していきたい。</p> <p>職員研修については、次年度においても校外から講師をお招きし、資質・能力の向上に繋げていきたい。</p>	
8	グローバル化に対応した教育の推進	<p>評価指標</p> <p>①台湾やドイツとの交流、徳島大学異文化キャラバン隊参加者、多言語ラボ(中国語・ドイツ語)、多文化共生講座の満足度80%以上を確保する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①台湾やドイツとの交流、サギノー短期留学は実施できなかったが、異文化キャラバンと多言語ラボは実施し、その満足度は95%を超えた。本年度は、異文化キャラバンに15名、多言語ラボ中国語は36名、ドイツ語は63名の受講者があり、オンライン等で楽しみながら言語学習を行った。また12月には、台湾の姉妹校とオンラインで交流した。</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p><b>A</b></p> <p>(所見)</p> <p>①世界各国の文化や言語を学び、また地元徳島大学の留学生と交流を活用しながら幅広いグローバル化に対応した教育を展開した。さらにIRPでは地元企業や諸団体の協力のもと、校内だけでなく、共に地域に出向き、社会の中で交流する機会も設けた。</p>	<p>コロナの影響で、留学生等の受け入れや、交流がなかなか難しい中、オンライン等での新しい取り組みで充実した活動ができています。</p> <p>この機会にオンラインでできる取り組み、オンラインでしかできない取り組みについても考えてもらいたい。</p> <p>異文化交流や国際交流については、生徒への効果が大変大きいので、今後も続けてほしい。</p>	<p>①先の見えないコロナ禍の長期化を想定し、実施方法なども含め、多様な生徒に参加を促すための工夫が必要である。</p> <p>台湾姉妹校との交流は、継続化させるためにオンライン交流を定着させたい。同様に、ドイツやサギノーとのオンライン交流も検討したい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①自文化を理解するためにも、地元徳島の現状を学び、課題を発見し、解決法を模索できる思考力を育成する。そのためにもIRPにおいて、徳島探究講座を実施し、地域に出向き、現状を理解する。</p> <p>①徳島大学教養教育院と協働し、異文化キャラバン隊への参加や、留学生訪問を通じて世界各地の社会や文化にふれる。</p> <p>①台湾・国立潮州高級中学、ドイツヘルバルトギムナジウム校との交流を通じて、アジア、ヨーロッパの高校生から幅広い知識を吸収する。</p> <p>①多言語ラボでの活動を通じて、英語に加えて中国語やドイツ語を学ぶことで多文化への理解を深め、視野を広げる。(※今年度は全てオンラインで実施予定)</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①グローバル化の基軸は地域、中でも地元理解にあり、地域の集合として世界を捉える視点を獲得できるかにかかっている。そのため徳島とより広い地域を結ぶ探究活動をSDGsの視点も取り入れて実施した。徳大との連携事業もこれに貢献した。</p> <p>①1学年での徳大留学生交流会では留学生の方々が作った演劇をオンラインで視聴し、生徒の多文化理解に成果を得ることができた。多言語ラボは徳島大学留学生や教授から文化や言語を継続的に学ぶ講座であるが、中国語・ドイツ語ともに多数の生徒が参加した。</p> <p>①サギノー短期留学、台湾国立潮州高級中学への研修では、異文化を直接体験する良い機会となっていたが、今年度はやむを得ず中止となったが、オンラインで交流を行った。</p>			
9	特色ある学校作りの推進	<p>評価指標</p> <p>①学校ホームページへのアクセス件数 150,000件以上</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①アクセス数189,446件(4/1~3/31) 昨年度178,394件</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p><b>A</b></p> <p>(所見)</p> <p>①学校施設、学校行事や授業の様子を記事と写真で配信し、保</p>	<p>コロナの関係で、多くの行事が中止になったり、規模を縮小せざるを得なくなってしまったのは残念であるが、市高祭やPTA家庭教育部文化教養講座などが何とか実施できたことは素晴らしい。</p>	<p>①保護者にたいしての情報提供はおもに「Classi」で行ったため、ホームページへのアクセス数は減少したと考えられる。ホームページの拡充を図り、中学生、地域のニーズに応じた情報の発信に努め</p>

	<p>す。</p> <p>③学校行事を充実させると共に積極的な公開に努める。</p> <p>1 市高祭の公開 2 体験入学等の実施</p>	<p>③市高祭の入場者数1200人以上を目指す。 ※今年度は非公開のためこの限りではない</p> <p>③アトラクション・表現展示・バザールの参加団体数42以上を目指す。</p> <p>③学校説明会の参加者数200人以上を目指す。</p> <p>④オープンスクールの参加者数250人以上を目指す。</p> <p>活動計画</p> <p>①ホームページの更新を年に100回以上行う。</p> <p>②PTA総会の日程や実施場所・方法を工夫する。また配布物による案内だけでなく、classiやホームページを利用し、きめ細かい情報提供交換を行う。</p> <p>②PTA主催の各行事毎に、保護者へのアンケートを実施し、今後の活動の参考にする。</p> <p>③学校・保護者による作品展・交流を行う等、内容の充実に努める。</p> <p>③事前の計画を綿密に立て、魅力ある公開授業やわかりやすい説明に努める。</p>	<p>③コロナ感染症感染防止のため、非公開で実施し内容も変更を余儀なくされたため評価出来ず。</p> <p>③学校説明会参加者423名(2日間合計)</p> <p>④オープンスクール参加者532名</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①134件(4/1~3/31)</p> <p>②今年度もコロナの影響でPTA総会は実施できなかった。その案内を紙媒体やclassiを通じて行った。</p> <p>②PTA家庭教育部主催文化教養講座でのアンケート結果より、内容については参加者全員の方が大変よかった又はよかったと回答しており、好評だった。コロナの影響により、市高祭が中止となり、急遽、今年はエントランスホールに作品を展示し、生徒たちや来校された方々に観ていただくことができた。</p> <p>③今年度はコロナ感染症感染防止のため、準備等は教員のみで行ったが、作品展には保護者にも出品していただき、内容の充実に努めることができた。</p> <p>③学校説明会のポスターやチラシを事前作成し関係中学校への広報活動にまわった。中学校での高校説明会にも本年度は13中学校で説明できた。</p>	<p>保護者や中学生等にたいして積極的な情報提供に努めた。</p> <p>②今年もコロナの影響でPTA総会も進路講演会も実施できなかった。来年度以降は例年通り開催し、参加率が上がるよう、実施形態や内容の検討を進めていきたい。</p> <p>③学校説明会は密を避けるため体育館を使用し、7月上旬に2日間実施した。本年度、体験入学を実施できないこともあり、2日間での参加者が423名であった。体験入学が中止となりオープンスクールの参加者数が大幅に増加した。本校への関心を持っている中学生、保護者が多いことが伺える。</p>	<p>PTAとの関係は今後も大切にし、できる範囲で顔を合わせ、交流を深めていく必要があると思う。</p> <p>ホームページのアクセス数が現在時点(2/17)では、240,000件を越えているのは素晴らしい。今後はホームページだけにとどまらず、様々な情報通信技術を活用して、更なる広報に努めて欲しい。</p>	<p>たい。</p> <p>②今年度は新型コロナウイルスの影響で中止となった。毎年PTA総会の出席者数が3割に満たないので、案内や内容、運営方法について検討の必要がある。家庭教育部文化教養講座は、参加者が満足できるような内容を今後も継続すると共に、参加者の幅を広げていく工夫を検討していきたい。</p> <p>③学校説明会や中学校での高校説明会などの開催できる機会を通じて、できるかぎり、中学生へ本校の魅力や情報を発信していきたい。また、3Dバーチャル体験入学のコンテンツを作成し、学校の様子などをHPを通して体験できるようにした。</p>
<p>10 情報教育の推進</p>	<p>①情報教育を拡充する。</p> <p>②ICT環境の整備を進める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①年間2回以上、情報セキュリティやICT活用指導力向上等に関する研修会を実施する。</p> <p>②生徒一人1台のタブレット端末が利用できる環境を整備する。</p> <p>②家庭でもインターネットにつないで学習に活用できるよう、支援するしくみを整える。</p> <p>活動計画</p> <p>①情報モラル教育年間指導計画を策定し、情報化の進展に適切に対応できる資質や態度を養う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①年度当初に校内情報システムについてのオリエンテーションを開いたほか、情報セキュリティやGIGAスクール構想の実施にともなう研修を5回以上開いた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①情報モラル教育年間指導計画にもとづき、授業、ホームルーム活動、オリエンテーション等をとおして、情報モラルの向上に取り組んだ。</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p><b>B</b></p> <p>(所見)</p> <p>①タブレット端末やアプリケーションを活用した学習を实践する環境整備を進めることができた。</p>	<p>学校の問題ではないが、タブレット端末や通信環境の不具合が多数発生し、授業や校務に支障があったことが残念である。また電子黒板やタブレットなどICTを活用しての授業の取り組み、実施の仕方について考え、生徒の授業に対する意識の向上を目指して、使う側の能力を高め、充実させてほしい。期待をしている。</p>	<p>①タブレット端末や通信環境の不具合が多数発生し、授業や校務に支障があった。生徒や教職員が円滑に利用できるよう改善を図りたい。</p>